

新聞切り抜き

死亡

★ 永野忠重さん(三三)、秋之茶屋一丁目の路上に於いて刃物で刺され、近くの病院に運ばれたが出血多量で死亡。(12/13・朝)

★ 北本花子さん(三三)、秋之茶屋三丁目で、死後三十分間たつて発見された。最近まで食堂を経営していたが、心臓の具合が悪く廃業。三百万円の預金通帳と現金二十万円が残されていた。(12/13・朝)

★ 栄業工業の下請作業員沼田宗さん(三三)、山陽線須磨駅東約三百メートルの離宮道踏切付近で、信譽機關係の工事中に大阪釜西明石行普通電車にはわらわ即死。(12/13・夕)

★ 五十歳前後、身長一・五メートル、グレーの作業着上下の氏名不詳氏、南区鶴谷東之町三五の路上で凍死。(12/13・読)

★ 六十歳前後で浮浪者風の男の人、中之島公園内の梅檀木(せんたんぎ)格の下で凍死。(12/16・朝、夕)

★ 十六日午前二時半ごろ、秋之茶屋三丁目、簡易ホテル「富士」の六階五号室に泊まっていた建設作業員本田時行さん(四五)が、自室で一睡に酒を飲んでいた十二号室の竹本貞美さん(四五)に果物ナイフで右腹を刺され、出血多量で間もなく死んだ。(12/17・朝)

★ 四十五と五十才の男の人、北区我野町の路上で、リヤカーの荷台に心とんを敷き、小犬を抱いたまま凍死。(12/17・朝)

三回 Ringer

★ 飛行機・新幹線を利用して競輪場を舞台に荒く回っていた集団暴力スリグループが、被害総額は九千間で五億円。グループは盗んだ金の一部を、共済基金として銀行に積み立て、捕まった仲間の手続費用や家族の生活費にあてたり、ハワイ、グアム島旅行をこぞと組織の結束を固めていた。(12/16・読、夕)

★ 「釜ヶ崎原爆被害者の会」は、越年対策として住宅、救急医療機関の確保などを大阪市に求めて、十九日午後、交渉を行った。(12/16・読)

★ 「ふるさとの家」に朝日歳末福祉資金七十五万円が贈られた。(12/16・朝)

★ 池田市住吉一、北口工務店の事務所と寄宿舍、違法建築で摘発される。

★ 事務所、寄宿舍ともに建築基準法第六条の建築確認申請の手続きを取っておらず、そのうえ二階以上の寄宿舍など特殊建物は同法二十七条で耐火構造が義務づけられているのに、なんの措置もとっていないが、なお、寄舎には五世帯十六人が住んでいた。(12/16・読)

★ 市民生局は、日雇労働者の越年対策として、二十九日から十日まで、住之江区南港南と西成区天下茶屋の二ヶ所に臨時宿泊所(三食つき)を設けることを決めた。収容人員は計千人。越年の世話に費された額は、一億二千万円とされている。(12/16・朝)

★ キタのターミナルの浮浪者は去年の二倍、百二十人、うち女性十二人。大阪市内に浮浪者を収容する

★ 宮本厚蔵さん(四五)、日ルホテルの三階十一号室、心とんの中で血を吐いて死亡。宮本さんは日雇労働者として働いていたが、五十一歳から肺結核、肝炎などを患い、近くの病院に通院していた。腹巻の中に、現金・預金通帳合わせて五十二万円があった。(12/16・読)

★ 柏原俊男さん(四九、通称カ、ちゃん)、前花工務店の従業員四人ととも、東大阪市後徳町五の酒店のトタンベイの修復工事中に倒れ、救急車で八戸ノ里病院に運ばれたが脳卒中で死す。社内屋敷のベッドから計百二十万円の預金通帳三冊が見つかった。

★ 一通は五十二年三月二十七日に六ヶ月満期となりながら引き出していない額面四十万円の定期貯金通帳(火災保険金)。死後は昨年五月二日に通帳を改めて繰越金七十八万二千八百七十七円を入金、その後毎月ほぼ一万円ずつ積み立てた額面九万三千九百一十円の普通預金通帳と額面千三百円の普通預金通帳。

★ 柏原さんは、四十一年以来十二年間、雨の日を除いて東大阪の前花工務店に通い職人として働き、建築現場のブロッコ積み、壁や屋根の仕上げ工事、配水管の敷設などを行っていた。今年になって日給が少く、二万五千円。前花工務店は、これまで月給が二万五千円を出して居る行った。(12/16・読)

★ 柏原さんは、元大阪中央郵便局長で、青果業の遺族から養子にとり受け先代局長の事業を手伝っていたが結婚の直前に戻り出ていた柏原俊雄さんと判別(12/16・読)

★ 施設は三ヶ所、計五百十人分あるが、すでに満員(12/16・朝)

★ 十四日午前十時四十五分ごろ、西成区秋之茶屋一丁目、あいらん労働福祉センター西側路上で、徳島県生まれ、作業員上さん(三九)が、熊本県生まれ、トビ職Nさん(三三)に刃物で左わき腹を刺される。(12/17・朝)

★ 「刑務所帰りの身の上では家族に迷惑がかかる」と、出所後二十年間を山中にこもり居る生活をしてきた人がいる。

★ Aさん(五七)は元大工で、三十二年に窃盗事件で服役した青森事務所を出所後、家族に迷惑がかかる自宅には帰らず、八戸市内で働いていたが、約一ヶ月後、屋根から落ちて腰を打ち、大工仕事を出来なくなった。そこで山ごもりを決意、季節によって場所を変えながら山中に穴を掘って生活、ときたま人里におりてものをいをこていた。(12/16・読)

★ 二十四日三知銀行秋之茶屋支店に酒のおいをさせながら現れた男が、おろした一万円札十枚にその場でライターで点火、預金通帳もろとも灰にこてしまった。男の人はとび職のKさん(三九)で、引き出した金は東京の建設現場で転落して右足骨折したときの労災補償金(毎月二十五円)の一部。(12/16・朝、読)